

榎野川河口干潟における干潟耕耘の効果について

山口県環境保健センター

川上 千尋・恵本 佑^{*1}・上原 智加・梶原 丈裕・山瀬 敬寛・
谷村 俊史・堀切 裕子・佐々木 紀代美・矢部 徹^{*2}

^{*1}現 山口県環境政策課, ^{*2}国立環境研究所

Effect of The Tilling of Tidal Flat In Fushino River Tidal Flat

Chihiro KAWAKAMI, Yu EMOTO^{*1}, Chika UEHARA, Takehiro KAJIWARA, Takahiro YAMASE,
Toshifumi TANIMURA, Yuko HORIKIRI, Kiyomi SASAKI, Toru YABE^{*2}

Yamaguchi Prefectural Institute of Public Health and Environment

^{*1}*Environmental Policy Division*, ^{*2}*National Institute for Environmental Studies*

第 46 回環境保全・公害防止研究発表会 講演要旨集, 102 (2019)

榎野川河口干潟は、かつて二枚貝を中心とした豊かな漁場であったが、近年では漁獲量の低下などが問題となっている。

そのような中、この榎野川河口干潟では、かつての資源豊かな干潟を取り戻すため、自然再生推進法の枠組みを活用し、流域を共有する産学民公の様々な団体等により「榎野川河口域・干潟自然再生協議会」（以下、「協議会」という。）が平成 16 年 8 月に発足した。協議会では、アサリの復活を象徴として、人力による干潟耕耘、被覆網の設置、竹筒を用いたアサリ育成の環境学習等、様々な里海再生活動を実施している。

耕耘には、適度な流れや渦流の形成、地盤の軟化、下層の栄養分の溶出等の効果があると言われており、硬質化・無機化した干潟を改善すると考えられているが、その効果の検証は十分とは言えない。

当センターは、協議会の構成メンバーとして、H17 年より効果的な耕耘方法や耕耘効果の検証を実施してきた。そこで、これまでに得られたデータから、耕耘効果について整理を行い、次の知見を得た。

- (1) 干潟耕耘には、稚貝の着底促進、泥温上昇抑制及び地盤の軟化効果があることが示唆された。
- (2) 有機物増加については確認されず、底質の酸化還元電位の低下抑制については効果が示唆されたが、一時的なものであった。